

# 再配置で目指す幼稚園数と実施時期について

※令和5年8月28日開催  
第2回幼稚園専門部会の配布資料

# 望ましい幼稚園数と再配置を行う場合の実施時期の検討を行います

## 検討の目的、前提、進め方

### 本日の目的

- 幼児教育にとって望ましい幼稚園の再配置の実施時期と幼稚園数について検討する

### 検討の前提

- 「子どもたちにとって何が望ましいか」という視点に立って考える
- 再配置（統合等。以下同様）を行うこととした場合の統合園の場所、整備方法、園の運営（スクールバスを出すか等）などは今後検討を行うものとする
- 直近数年間ではなく、長期的な（今後20年程度の）将来を見据えて検討を行う
- 保護者や地域住民のご意見も踏まえて検討を行う

### 検討の進め方

- 幼稚園の再配置の実施時期と幼稚園数の検討は、以下の手順で進めます

幼稚園の園児数の推移や  
将来の見通しの整理

- コーホート変化率法による将来推計の見直しを行い、各幼稚園の各学年の各学級において園児数がどのように推移するか把握する

望ましいと考えられる  
学級規模及び  
学級規模の将来の見通し  
の整理

- 幼児教育にとって望ましい学級規模の基準及びその論拠を整理する
- 将来推計に基づき、将来の学級規模を把握する

将来の幼稚園数の検討

- 望ましい学級規模を確保するためには将来的に何園体制としなければならないかを検討する
- 想定される再配置の組み合わせを全て整理したうえで、どの組み合わせが望ましいかを検討する

再配置の実施時期の検討

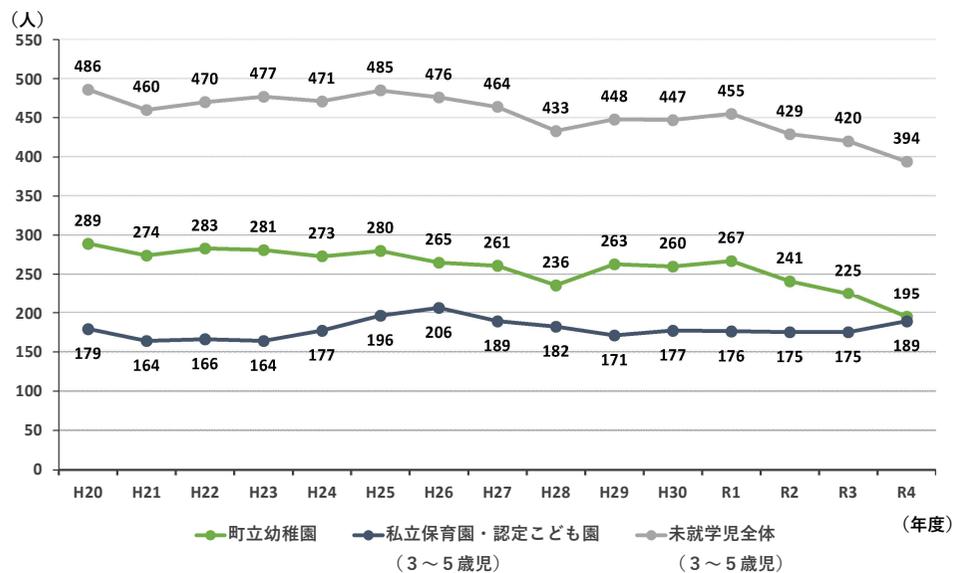
- 将来の幼稚園数を実現するために、どの時期に再配置を実施するべきかを検討する

# 幼稚園園児数は減少を続けており、現在の中央幼稚園以外の3園はいずれの学年においても1学年に1学級のみとなっています

## 幼稚園園児数の推移

### 幼稚園園児数の推移

- 幼稚園園児数は概ね約300～200人で推移しており、特に直近4年間は減少傾向にあります
- 幼稚園入園率が減少傾向にある一方、保育園・認定こども園への入園率は堅調に推移しており、保育ニーズの高まりがみられます
- 未就学児全体としても緩やかに減少を続けています



### 現在の幼稚園園児数及び学級数

- 令和4年10月1日時点の各園の学年別園児数及び学級数は下表のとおりです
- 中央幼稚園の3歳児（年少）・4歳児（年中）のみ1学年2学級となっていますが、他の幼稚園のいずれの学年も1学年1学級のみとなっています
- 矢吹幼稚園の3歳児（年少）・5歳児（年長）及び三神幼稚園の3歳児（年少）は現時点で1学級10人を下回る人数規模となっており、園の小規模化による幼児教育環境への影響が懸念されます

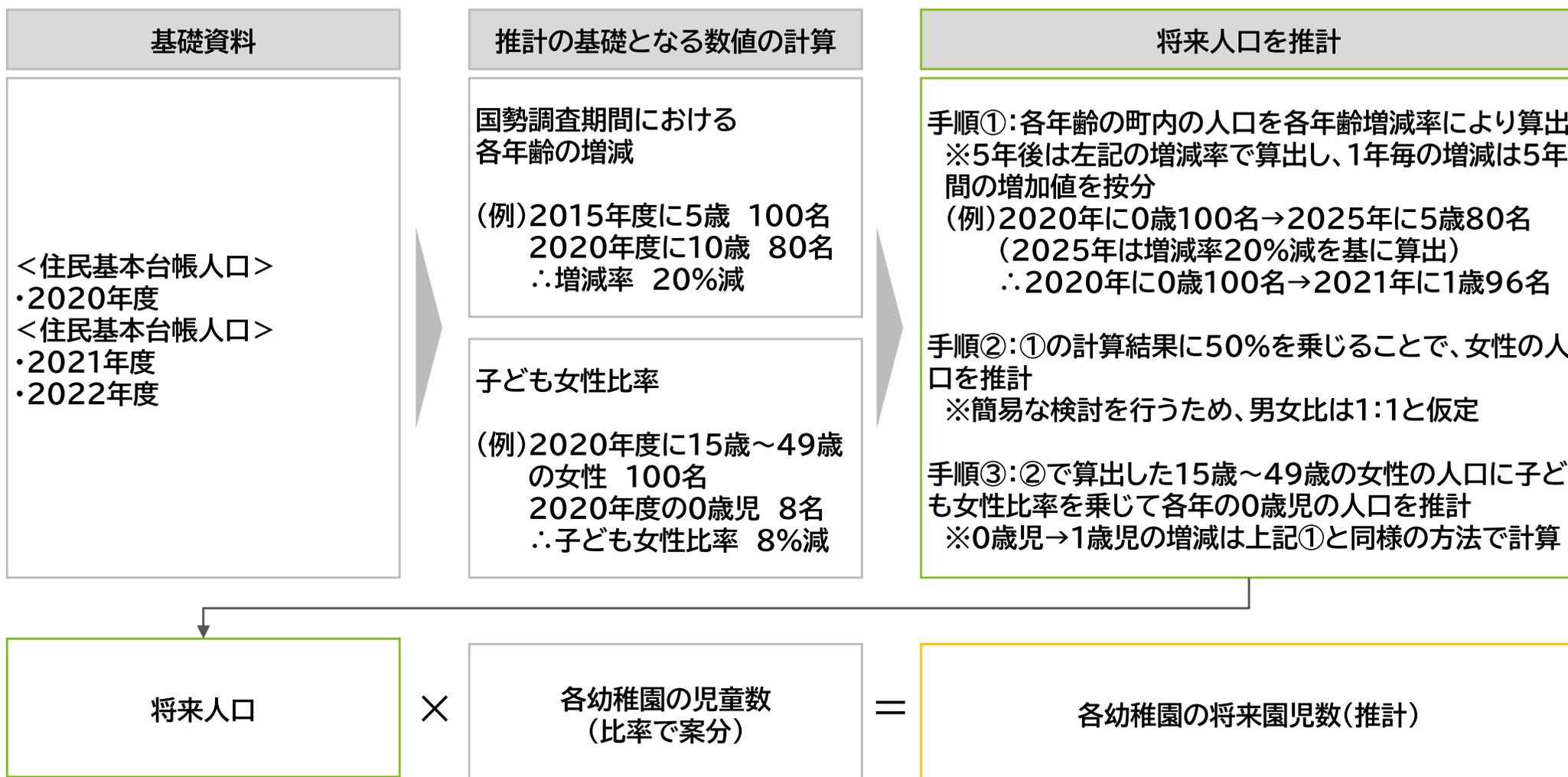
	年少	年中	年長	計	定員
矢吹幼稚園	7 (1)	20 (1)	9 (1)	36	110
中央幼稚園	28 (2)	29 (2)	25 (1)	82	180
中畑幼稚園	10 (1)	10 (1)	16 (1)	36	90
三神幼稚園	8 (1)	18 (1)	12 (1)	38	90
計	53	77	62	192	470

※( )内は学級数です

# コホート変化率法は、過去の人口推移の変化率に基づいて将来人口を推計する方法をいいます

## コホート変化率法の推計方法

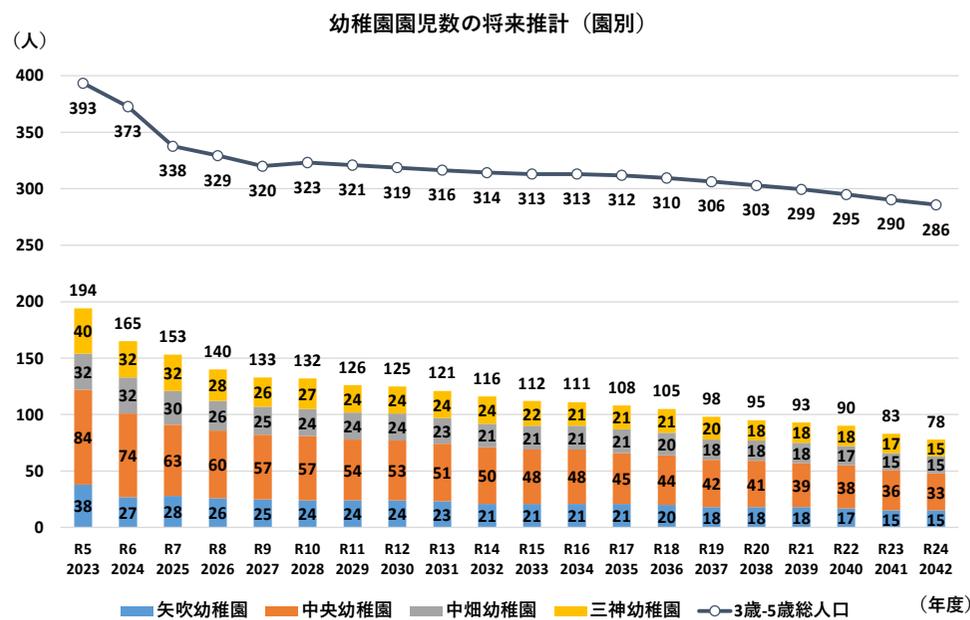
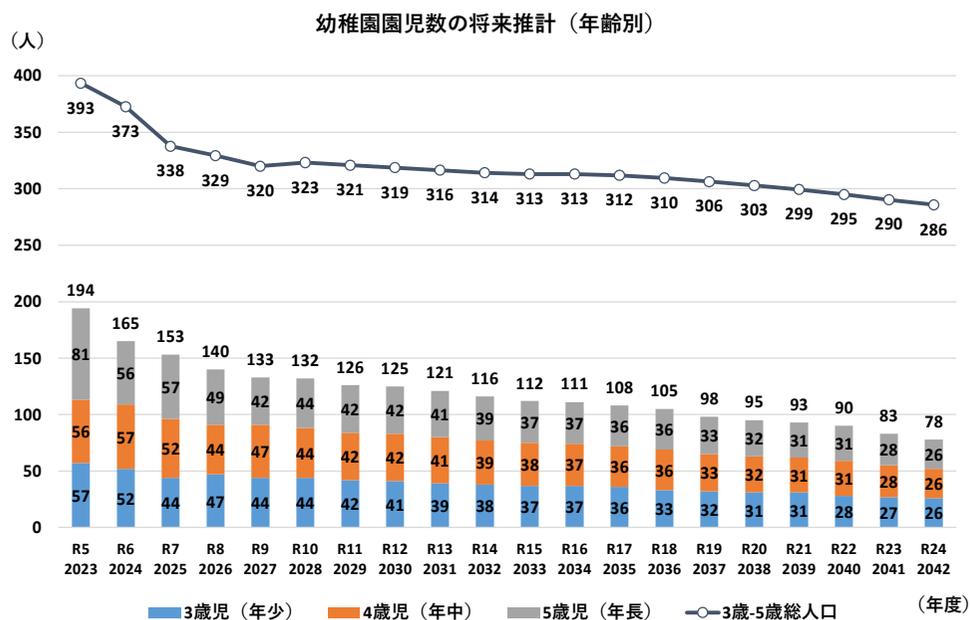
- コホート変化率法により、過去の国勢調査の結果を基礎資料として、各年齢別人口の経年における変化及び新生児と女性の人口比に着目して人口推計を行いました（結果は次頁以降に掲載）
- 次頁に記載の各幼稚園の将来園児数は、上記の人口を現在の各幼稚園等の園児数で案分して算出しました



# 適正規模・適正配置計画検討の重要な基礎資料となる将来推計の精度を向上するため、改めてコホート変化率法により将来推計を実施しました

## コホート変化率法による幼稚園園児数の推計結果（町全体）

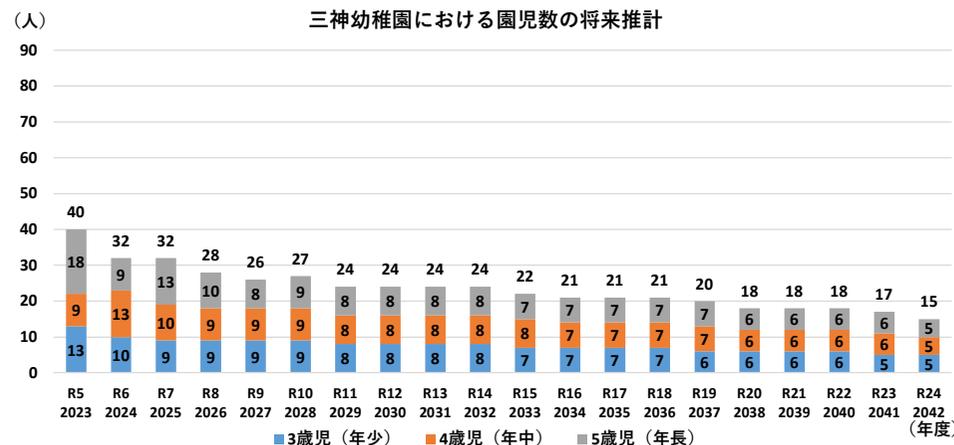
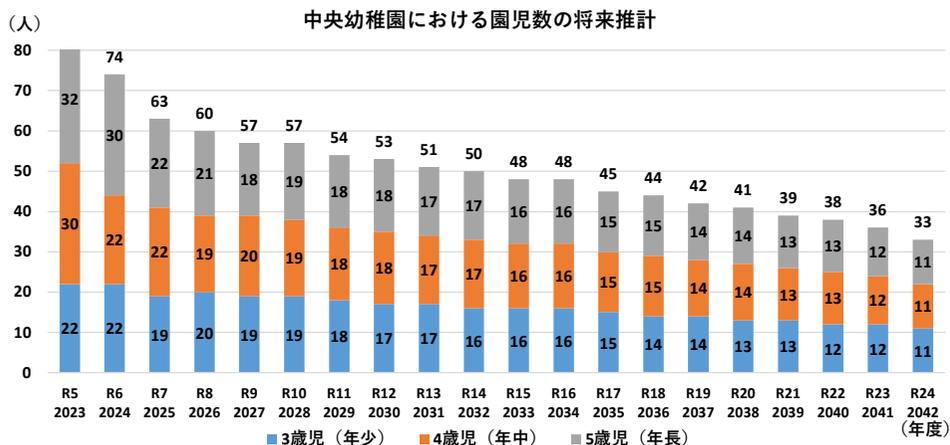
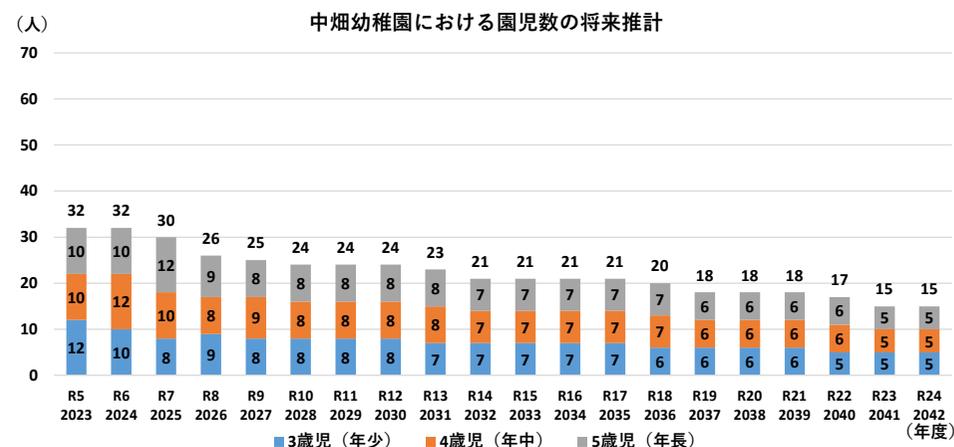
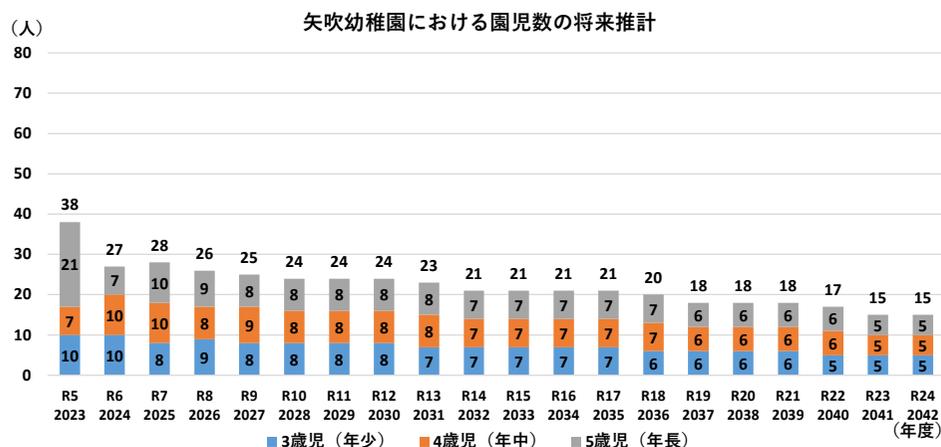
- 一般的に人口推計で用いられるコホート変化率法（過去の人口推移の変化率を用いて将来人口を推計する手法）により、改めて幼稚園園児数の推計を実施しました
- 令和5年度時点では194人でしたが、約20年後の令和24年度には半数以下の78人となる見込みです



# 適正規模・適正配置計画検討の重要な基礎資料となる将来推計の精度を向上するため、改めてコーホート変化率法により将来推計を実施しました

## コーホート変化率法による幼稚園園児数の推計結果（各地区幼稚園別）

- 各地区幼稚園別の園児数の推計結果は以下のとおりです
- 比較的に規模の大きい中央幼稚園を除き、矢吹幼稚園、中畑幼稚園、三神幼稚園の3園はいずれも20年後には園全体で15人程度の人数規模となると見込まれています



# 幼児教育にとって望ましい1学級あたりの園児数について、11人未満、15人未満、21人未満を基準としたうえで検討を行います

## 幼稚園の学級規模に関する考え方

### 基本方針における望ましい幼稚園規模の考え方

- 幼児教育における環境としては、主に園児間の人間環境といった他者とのかかわり（人的環境）が重要となるため、町立幼稚園における各学級において集団での遊びや学びが経験できるよう、**20人程度の学級**を編制することができる幼稚園規模を検討する
- あわせて園児一人ひとりに目が行き届くような教職員の配置等を検討する

### 「20人程度の学級」とする論拠・考え方

- 園児数の減少が続くなかで、将来にわたり20人以上の学級規模を確保することは難しい
- 11～20人であれば、5人程度の少人数集団を複数グループ作成することができ、集団での教育効果を最低限確保できると思われる
- 令和4年度の住民アンケート調査結果では、望ましいと思う1学級あたりの園児数は「11～20人」が最も多かった

## 幼稚園数と再配置の実施時期に係る検討にあたっての条件設定

### ■ 目標とする時期

- 中長期的な視点から**今後20年間**の見通しを踏まえて再配置を検討する

### ■ 1学級あたりの園児数として**11人未満、15人未満、21人未満の3つの基準**を設けて望ましい幼稚園規模を検討する

- 11人未満は「幼児教育にとって望ましくない学級規模」、15人未満（11～14人）は「望ましい水準よりやや小規模な学級規模」、21人未満（15～20人）は「概ね望ましい水準の学級規模」と考える
- ある園の全ての学年において1学級あたりの園児数が11～14人となった場合、その園は今後を見据えて再配置を行う必要がある状況になっているものとする
- ある園の全ての学年において1学級あたりの園児数が11人未満となった場合、その園は速やかに再配置を行うべき状況になっているものとする

### ■ その他

- 異年齢学級（いわゆる複式学級）は想定しない

# 令和8年度には、矢吹、中畑、三神の3園において全ての学年で1学級あたりの園児数が11人未満となると見込まれており、再配置の検討が必要な状況となっています

## 幼稚園の学級規模に関する見通し

年度		R5 2023		R6 2024		R7 2025		R8 2026		R9 2027		R10 2028		R11 2029		R12 2030		R13 2031		R14 2032	
園児数(学級数)		園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数								
矢吹 幼稚園	3歳児(年少)	10	(1)	10	(1)	8	(1)	9	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	7	(1)	7	(1)
	4歳児(年中)	7	(1)	10	(1)	10	(1)	8	(1)	9	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	7	(1)
	5歳児(年長)	21	(1)	7	(1)	10	(1)	9	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	7	(1)
	合計	38	(3)	27	(3)	28	(3)	26	(3)	25	(3)	24	(3)	24	(3)	24	(3)	23	(3)	21	(3)
中央 幼稚園	3歳児(年少)	22	(1)	22	(1)	19	(1)	20	(1)	19	(1)	19	(1)	18	(1)	17	(1)	17	(1)	16	(1)
	4歳児(年中)	30	(2)	22	(1)	22	(1)	19	(1)	20	(1)	19	(1)	18	(1)	18	(1)	17	(1)	17	(1)
	5歳児(年長)	32	(2)	30	(2)	22	(1)	21	(1)	18	(1)	19	(1)	18	(1)	18	(1)	17	(1)	17	(1)
	合計	84	(5)	74	(4)	63	(3)	60	(3)	57	(3)	57	(3)	54	(3)	53	(3)	51	(3)	50	(3)
中畑 幼稚園	3歳児(年少)	12	(1)	10	(1)	8	(1)	9	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	7	(1)	7	(1)
	4歳児(年中)	10	(1)	12	(1)	10	(1)	8	(1)	9	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	7	(1)
	5歳児(年長)	10	(1)	10	(1)	12	(1)	9	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	7	(1)
	合計	32	(3)	32	(3)	30	(3)	26	(3)	25	(3)	24	(3)	24	(3)	24	(3)	23	(3)	21	(3)
三神 幼稚園	3歳児(年少)	13	(1)	10	(1)	9	(1)	9	(1)	9	(1)	9	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)
	4歳児(年中)	9	(1)	13	(1)	10	(1)	9	(1)	9	(1)	9	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)
	5歳児(年長)	18	(1)	9	(1)	13	(1)	10	(1)	8	(1)	9	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)	8	(1)
	合計	40	(3)	32	(3)	32	(3)	28	(3)	26	(3)	27	(3)	24	(3)	24	(3)	24	(3)	24	(3)
4園合計		194	(14)	165	(13)	153	(12)	140	(12)	133	(12)	132	(12)	126	(12)	125	(12)	121	(12)	116	(12)

令和8年度には、矢吹、中畑、三神の3園で、全ての学年において1学級あたりの園児数が11人未満となると見込まれます

令和9年度には、いずれの園のいずれの学年においても1学級あたりの園児数が21人未満となると見込まれます

令和19年度には、中央幼稚園において全ての学年において1学級あたりの園児数が15人未満となると見込まれます

年度		R15 2033		R16 2034		R17 2035		R18 2036		R19 2037		R20 2038		R21 2039		R22 2040		R23 2041		R24 2042	
園児数(学級数)		園児数	学級数																		
矢吹 幼稚園	3歳児(年少)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	5	(1)	5	(1)	5	(1)
	4歳児(年中)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	5	(1)	5	(1)
	5歳児(年長)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	5	(1)	5	(1)
	合計	21	(3)	21	(3)	21	(3)	20	(3)	18	(3)	18	(3)	18	(3)	17	(3)	15	(3)	15	(3)
中央 幼稚園	3歳児(年少)	16	(1)	16	(1)	15	(1)	14	(1)	14	(1)	13	(1)	13	(1)	12	(1)	12	(1)	11	(1)
	4歳児(年中)	16	(1)	16	(1)	15	(1)	15	(1)	14	(1)	14	(1)	13	(1)	13	(1)	12	(1)	11	(1)
	5歳児(年長)	16	(1)	16	(1)	15	(1)	15	(1)	14	(1)	14	(1)	13	(1)	13	(1)	12	(1)	11	(1)
	合計	48	(3)	48	(3)	45	(3)	44	(3)	42	(3)	41	(3)	39	(3)	38	(3)	36	(3)	33	(3)
中畑 幼稚園	3歳児(年少)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	5	(1)	5	(1)	5	(1)
	4歳児(年中)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	5	(1)	5	(1)
	5歳児(年長)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	5	(1)	5	(1)
	合計	21	(3)	21	(3)	21	(3)	20	(3)	18	(3)	18	(3)	18	(3)	17	(3)	15	(3)	15	(3)
三神 幼稚園	3歳児(年少)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	5	(1)	5	(1)
	4歳児(年中)	8	(1)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	5	(1)
	5歳児(年長)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	7	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	6	(1)	5	(1)
	合計	22	(3)	21	(3)	21	(3)	21	(3)	20	(3)	18	(3)	18	(3)	18	(3)	17	(3)	15	(3)
4園合計		112	(12)	111	(12)	108	(12)	105	(12)	98	(12)	95	(12)	93	(12)	90	(12)	83	(12)	78	(12)

- : 21人以上/学級
- : 15~20人(21人未満) /学級
- : 11~14人(15人未満) /学級
- : 0~10人(11人未満) /学級

# 矢吹、中畑、三神の3園を統合し中央は存続させる2園体制とするか、4園を統合して1園体制とするかの2パターンを検討します

## 将来の幼稚園数の検討

- 将来の幼稚園数と、それに対応する幼稚園の再配置パターンを全て整理しました
- なかでも**矢吹、中畑、三神の3園を統合し中央は存続させる2園体制**とするか、**4園を統合して1園体制**とするかの2パターンが適正と考えられます

将来の幼稚園数	再配置の内容	想定される再配置の組み合わせ				20年後において1学級あたりの園児数を11人以上確保できるか	1学級あたり園児数11人を確保できない園
		矢吹幼稚園	中央幼稚園	中畑幼稚園	三神幼稚園		
4園	4園が現状のまま存続する	－	－	－	－	確保できない	矢吹、中畑、三神
3園	2園統合し、残る2園は現状のまま存続する	統合	統合	－	－	確保できない	中畑、三神
		統合	－	統合	－	確保できない	三神、矢吹＋中畑
		統合	－	－	統合	確保できない	中畑、矢吹＋三神
		－	統合	統合	－	確保できない	矢吹、三神
		－	統合	－	統合	確保できない	矢吹、中畑
		－	－	統合	統合	確保できない	矢吹、中畑＋三神
2園	2園ずつ統合する	統合	統合	統合	統合	確保できない	中畑＋三神
		統合	統合	統合	統合	確保できない	矢吹＋中畑
		統合	統合	統合	統合	確保できない	矢吹＋三神
	3園を統合し、1園はそのまま存続させる	統合	統合	統合	－	確保できない	三神
		統合	統合	－	統合	確保できない	中畑
		統合	－	統合	統合	確保できる	なし
		－	統合	統合	統合	確保できない	矢吹
1園	4園を1園に統合する	統合	統合	統合	統合	確保できる	なし

# 幼児教育にとって望ましい教育環境を整備するためには、令和8年度以降に4園を1園に統合することが望ましいと考えられます

## 再配置の実施時期の検討

- 将来の幼稚園数を実現するための幼稚園の再配置の進め方（実施時期）は以下の3パターンが考えられます
- 将来にわたり幼児教育にとって望ましい学級規模を確保するためには、令和8年度以降に4園を1園に統合する方法が望ましいと考えられます

将来の幼稚園数	想定される再配置パターン	メリット	デメリット	適正規模
2園	【パターンA】 令和8年度以降に矢吹、中畑、三神の3園を統合し、中央はそのまま存続させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1園に統合する場合と比較すると、幼稚園を現在と近い地域に残すことができる可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 統合しない中央においては、令和24年度時点で全ての学年の学級規模が11人となる見込みであり、令和25年度以降間もなく学級規模が11人を下回ると見込まれる</li> </ul>	今後20年間は11人以上の学級規模を確保できる。 しかし、統合しない中央においては令和25年度以降には11人規模を下回ると見込まれる
1園	【パターンB（段階的統合）】 令和8年度以降に矢吹、中畑、三神の3園を統合するさらに、令和19年度以降に中央を統合する	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3園の全ての学年で学級規模が11人を下回る令和8年度以降と、中央の全ての学年で学級規模が11人を下回る令和19年度以降の2段階に分けて、園児数の減少状況に合わせた段階的な再配置を進めることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 矢吹、中畑、三神の園児や保護者としては令和8年度以降と令和19年度以降の2回再配置をする段階的な統合は、統合時期の園児、保護者への負担が大きく、その効果を検証することが難しい。</li> </ul>	今後20年間は11人以上の学級規模を確保できる。 しかし、途中で2回再配置を行うこととなることから、長期的にみて園児や保護者の負担が大きくなると考えられる
	【パターンC（一括統合）】 令和8年度以降に4園を1園に統合する	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 再配置が令和8年度以降の1回で完了するため、長期的にみると子どもや保護者の負担を軽減できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 令和8年度では4園の全園児数が140人程度となることから、この人数規模の園児を収容できる園を検討する必要がある</li> <li>• 統合当初は大規模な園となると見込まれるため、園児一人ひとりに目が行き届く対策が必要である</li> </ul>	今後20年間は11人以上の学級規模を確保できる。 ただし、園児一人ひとりに目が行き届くような職員配置を行うとともに、通園の長距離化等への対応を検討する必要がある

# 參考資料



# 適正規模・適正配置計画検討の重要な基礎資料となる将来推計の精度を向上するため、改めてコホート変化率法により将来推計を実施しました

## コホート変化率法による未就園児数の推計結果（町全体）

- 令和5年度時点では303人でしたが、約20年後の令和24年度には259人となる見込みです

